

## 第21回 記念の桜（櫻その1）



撮影 1997年9月22日(月)



左は故村岡明君の記念碑。記念に植樹した桜は50年が経ち、校門から校庭にかけて今も何本も大きく育っている。

開校して3年目、現在の小学校校舎が新築された年の夏休み中のこと、1974年8月20日(火)、当時6年生であった村岡明(あきら)君が、学校の近くにあるローリックの屋外プールで溺死しているのが発見された。同月保護者の村岡茂夫様から、明君へのお香典が日本人学校、ケルン聖園(みその)、デュッセルドルフ聖園に夫々同額で御寄附いただいた。学校ではその御寄付 922 マルクで校舎の周囲と校門から校庭にかけて3種類、47本の桜を植えた。(かんざん<日本なでしこ櫻>25本、天の川7本、しだれ桜15本)。植樹は時期を考えて1975年1月に実施された。

「村岡明君記念植樹」の木製の記念碑は1997年9月には撮影されていたが、その後記念碑は2001年の創立30周年事業の一環で、2002年のフェンス改修工事の際に行方不明になってしまった。植樹から50年経った今も桜の一部は校門のすぐ側で見られる。